

# 総合アレルギー専門医に求められる小児科領域

*Pediatrics skills and knowledge for total allergist*

勝沼 俊雄

*Toshio Katsunuma*

東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科診療部長・准教授

## Summary

日本アレルギー学会では従前より、総合アレルギー診療医(Total Allergist)たる専門医のあり方について議論を重ねてきた。小児科領域に関して、小児科専門医は重症アレルギー疾患、難治性アレルギー疾患にまで精通すべきである。基盤科が小児科以外の医師については、以下の研修7目標を提案したい。①アナフィラキシーへの対応、②年齢区分ごとの慢性咳嗽・喘鳴の鑑別診断、③中等症(step 3)以下の小児喘息対応、④軽症食物アレルギーへの対応、⑤軽症アトピー性皮膚炎への対応、⑥小児の薬用量、⑦家庭・地域での生活指導。

## Key words

アナフィラキシー, 慢性咳嗽, 喘息, 食物アレルギー, アトピー性皮膚炎, 生活指導

日本アレルギー学会では約10年前より、日本アレルギー学会認定専門医(以下、アレルギー専門医)について、制度の抜本的改正作業に取り組んできた。これは、厚生労働省および日本専門医制度評価・認定機構(以下、機構)が推進する専門医制度改革の一環ともいえる。すなわち、従来専門医の認定は学会が行ってきたが、今後は機構によってなされるように制度が変わる。現在機構は、専門医を有する各学会に、専門医のあり方と制度の再構築を求めている。

アレルギー専門医はサブスペシャルティ領域と称され、「内科」「皮膚科」「耳鼻咽喉科」「眼科」「小児科」など基盤科専門医を土台とした、いわゆる2階部分に相当する。

アレルギー学会においては従前より、総合アレルギー診療医(Total Allergist)たる専門医のあり方についても議論を重ねてきた。医学界全体として、専門医とは「神の手」「スーパードクター」ではなく、それぞれの診療領域において安心・安全で標準的な医療を提供できる医師を専門医と定義するという方向性が示されている。

それではアレルギー領域における専門医とは、